

海の科学講座 in 九州

～海に興味を持つきっかけをつくる～

資源海洋部 海洋環境グループ 山田 東也

海に興味を持つきっかけがなくなっている

この記事をご覧になっている皆さんは、海のことを知っていることをあげてくださいと言われたら、どんなことが頭に思い浮かぶでしょうか。あまり知られていない事かもしれませんが、現在の小中学校の理科の教科書には「海」という単元はありません。海をめぐる話では、昨年黒潮が13年ぶりに大蛇行して話題となりましたが、黒潮という名もわずかに地理の教科書に出てくるだけで、20代までの人で黒潮の大蛇行がどういう現象かわかる人は少ないと思います。

とはいえ、海は広くて大きいので、海の研究を進めるにあたっては多くの関係者の協力が必要となり、特に大学の研究室の協力を抜きに考えることはできません。私が所属する水産研究・教育機構は2016年4月に水産大学校が統合して発足し、人材育成にも力を入れています。海に関係した大学に進学する人が増えることを期待して、海に興味をもってもらうための講演活動を行っています。

一般向け講演会の開催

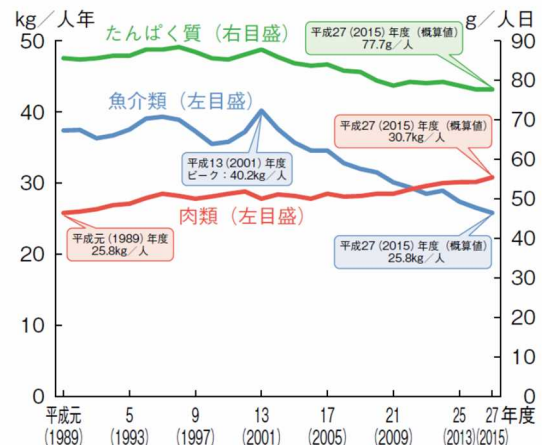
私は、水産研究・教育機構西海区水産研究所で海に興味を持ってもらう講演活動の一つとして「海の科学講座 in 九州」を開催しています。これは高校生や一般市民の方々を対象とした連続講座で、福岡管区気象台及び九州大学応用力学研究所と共催で2014年から毎年1回、8月上旬頃に福岡市で開催しています。一般向け講演会は、2014年以前にも2009年から2013年まで当時の長崎海洋気象台（現在は長崎地方気象台に改組）と共催で教養講座「海からのメッセージ」を長崎市内で開催していたので、あわせて9年間にわたって一般向け講演会を開催しています。

「海の科学講座 in 九州」は、普段触れる機会の少ない海の振る舞いや地球環境における役割、いま海で起きていることなどを、九州で海や海の生き物のことを調べている専門家がわかりやすく講演する企画です。講演は開催ごとにテーマを決めて行っており、テーマは参加者が興味を持っていただけることを第一に決めています。昨年開催した第4回のテーマは「変わりゆく海～海と魚のきのう・きょう・あす～」で、地球温暖化を背景とした講演を行いました。過去のテーマと講演の内容についての概要は、各回の案内ポスターが西海区水産研究所 HP (<http://snf.fra.affrc.go.jp/event/index.html>) に掲載してありますのでそちらをご参照ください。また、「第5回海の科学講座 in 九州」については、今年の8月上旬に福岡市内で開催する予定で企画中です。

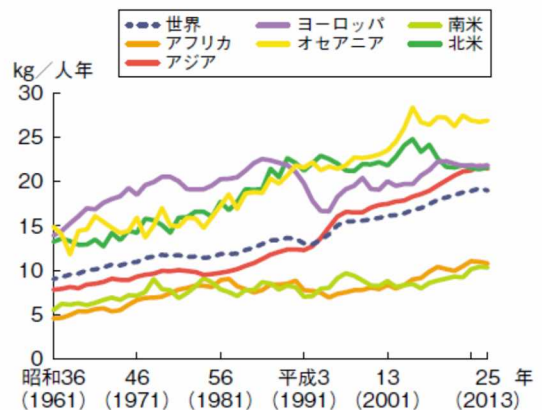
日本人の魚介類の消費量は肉類を下回ったけれども

下の図(図上段)は、「食用魚介類及び肉類の1人1年当たり消費量(純食料)とたんぱく質の1人1日当たり消費量」の推移です(平成28年度水産白書)。平成23年度頃を境に肉類の消費量が魚介類の消費量を上回りました。理由としては、食事内容の欧米化や調理の煩わしさ(できるだけ簡単にしたい)、単価の上昇などがあげられますが、「世界の1人1年当たり食用魚介類消費量」は依然増えています(図下段)。

水産研究・教育機構では「水産資源の持続的利用」、「水産業の健全な発展と安全な水産物の安定供給」のための研究を行っており、今後も海に関する幅広い研究が行われます。1人でも多くの人に興味を持っていただけるよう講演活動などを続けていきたいと思っています。



資料：農林水産省「食料需給表」



資料：FAO [FAOSTAT (Food Balance sheets)]
注：粗食料とは、廃棄される部分も含んだ食用魚介類の数量。